

・・・ 編集後記 ・・・

新たな年を迎えました。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本年の十二支は酉、干支は丁酉(ひのと)です。干支は十干と十二支を組み合わせた時間の単位の一つであり、六十通りあります。ちなみに12年前は乙酉(きのと)、昨年は丙申(ひのえさる)でした。かく言う私自身、恥ずかしながら十二支と干支の違いを正確に理解したのは最近のことです。その程度ですから、それぞれの干支がもつ由来や意味を詳しく知っているわけではありません。酉と聞いて思い浮かぶのは商売繁盛。その程度です。こそこそ語源辞典を調べてみますと、「酉」という字は果実が成熟した状態「実り」を表すとのこと。私たちの生業は売り買いではないので、劇的な成果を即座に実感することはできませんが、これまでの努力が実を結ぶことは期待できます。今年が収穫の年になって欲しいと願わずにはられません。

本誌に寄せられる論文を拝読させていただきますと、先生方皆さんが試行錯誤しながら教育にあたられていらっしゃる事がわかります。臨床検査学教育の難しさは臨床の現場と教育の間にあるギャップに起因しています。これは臨床検査学に限った問題ではありません。医療職養成における共通の課題です。とりわけ医師以外のメディカルスタッフ養成においてそのギャップが大きいといえます。その主たる原因は教育側が現場の技術的進歩に追いついていない点にあると捉えられがちですが(私自身も現場に居た頃はそうでした)、本質は違うように思います。

どんなに新しい技術であってもその多くは普遍的な

理論や原理を基盤としています。それを理解せずして新しい検査技術の開発は疎か後輩技師の指導を満足に行うことはできません。しかし、新しい技術しかもそのオペレーションの習得に追われるあまりか、どうも理論的な面においてひ弱な臨床検査技師が増えているように思えます。そのような状況が昨今問題となっている臨床検査のブラックボックス化の一因でもあると、私は常々考えています。もし、ギャップの原因を教育側に求めるのであれば、最新技術を十分に指導できているかということ以上に、基盤となる知識の教授を通じて卒後教育を担うのに必要な素養を身につけさせることができているかという点を問題視すべきです。そして何より、最も根本的な原因である臨床検査学の教育体制そのものを改革する必要があると思います。医師教育のように、現場の技師が検査の実務に携わりつつ教育を提供することができるようになれば、現場と教育の間にあるギャップとそれに付随する諸問題は瞬く間に解消されるはずですが、一朝一夕に解決できる問題ではありませんが、外堀を埋めていくがごとく、まずは現場と教育の接点を増やし、つづいて双方の交わりを多くしながら、徐々に理想の教育体制に近づけていくしかありません。

2017年酉年。ただ実りだけを期待するのではなく、将来の収穫に向けた地道な努力も怠らないように一年を過ごしたいものです。桃栗三年柿八年です。

末筆ながら会員の皆様方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(平成29年1月5日 編集委員 山内一由)

一般社団法人日本臨床検査学教育協議会
日本臨床検査学教育学会 学術部
編集委員会(平成27・28年度、五十音順)

副理事長(学術部)：奥村伸生(信州大学)

委員長：松尾収二(天理医療大学)、副委員長：嶋田かをる(熊本保健科学大学)・渡邊幹夫(大阪大学)

委員：石橋佳朋(東武医学技術専門学校)、奥宮敏可(熊本大学)、坂口みどり(九州医学技術専門学校)、高岡榮二(高知学園短期大学)、村上博和(群馬大学)、山内一由(筑波大学)、横尾智子(新渡戸文化短期大学)、横田浩充(東邦大学)

臨床検査学教育 第9巻第1号

平成29年3月1日 発行

発行人：一般社団法人日本臨床検査学教育協議会
理事長 戸塚 実
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科
生体検査学専攻内
Tel. 080-8914-3214
e-mail : jimukyoku@nitirinkyo.jp
http://www.nitirinkyo.jp

編集：日本臨床検査学教育学会 学術部 編集委員会
e-mail : edit@jamte.org
制作：(株)宇宙堂八木書店
〒104-0004 東京都中央区入船3-3-3
Tel. 03-3552-0931 FAX 03-3552-0770
広告取扱社：(株)日本廣業社
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-11
Tel. 03-3238-7501